

1. 理念・目的・教育目標の達成状況

本学は、学是「仁」(人在りて我在り、 他を思いやり、慈しむ心、これ即ち「仁」)と理念「不断前進」(現状に満足せず、常に高い目標を目指して努力し続ける姿勢)に則り、「三無主義」(出身校、国籍、性による差別無く優秀な人材を求め、活躍の機会を与える)の学風を掲げ、5学部3研究科6附属病院からなる「健康総合大学・大学院大学」として教育、研究、診療・実践、そしてリベラルアーツを通じて国際レベルでの社会貢献と人材育成を進めている。

ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーに則した教育を展開し、学生と教員の距離が近く、きめ細かな指導を実践している。この結果、学部における学修成果の指標として重視している各国家試験合格率及び就職率は、いずれも毎年、全国平均を大幅に上回る実績を上げている。

大学院における学修成果の指標としては、学位論文の質を重視している。インパクト・ファクター(IF)やサイテーション・インデックス(CI)の高い論文が数多く発表されていることは、当大学院に質の高い大学院教育とともに優れた研究成果を生み出せる確かな指導力があることを証明している。

今回の自己点検・評価の結果から、大学全体としては、教育・研究関係、学生関係、管理運営・財務関係において、それぞれの基準を満たしていると考え、継続的に様々なレベルでPDCAサイクルを回し、大学改革を進め、更なる高みを目指していきたい。

2. 優先的に取り組むべき課題

1) 大学基準協会の指摘事項への対応

本学は、2016(平成28)年度、(公財)大学基準協会の大学評価(認証評価)を受審し、適合判定を受けている。その際、5つの努力課題の指摘を受けた。2018(平成30)年8月、指摘事項について、中間報告をとりまとめ、概ね改善されたことを確認した。

2) 3つのポリシーを起点としたPDCAによる教育・研究の質保証

3つのポリシーを起点としたPDCAサイクルを回し、教育・研究等に関する内部質保証システムを確立していくことが必要になる。「学生が何を身につけたか」という観点を重視して、学修成果の把握が適切にできるように評価方法を確立していく必要がある。また、カリキュラムの改善に関しては、現行カリキュラムを評価し、改善の提言を行うカリキュラム評価委員会を各学部・研究科で整備した。教務委員会やカリキュラム委員会とは別の組織で、客観的な評価を行うことにより、教育の質向上に向けて取り組んでおり、その成果は、大学協議会にて検証するというサイクルを確立していく。現に、カリキュラム改正の必要性を認識し、スポーツ健康科学部、医療看護学部、保健看護学部では、2019(平成31)年度より、カリキュラム改正を行う予定で準備が進められている。

3) 国際化の推進

国際化推進方針である「国際化ビジョン」に基づき、学位取得留学生数、短期受入留学生数、海外留学・派遣・研修等学生数及び国際交流協定校数の増加を図るよう取り組んでいきたい。

教育の国際的通用性に注目が集まる中、本学では、「TOEFL」、「IELTS」を中心とした英語教育を全学で推進している。入学試験においても、国際化に対応できる素養を持った学生を求め、両試験に代表される外部評価機関の得点を出願条件に加える等の改革を継続したい。

終章

研究面では、基礎医学と臨床医学が有機的に連携する優れた研究体制を築いてきたことが、多数の国際レベルでの論文発表に繋がっている。引き続き、国際共同研究を推進し、質の高い論文数の増加に注力していきたい。また、2018(平成30)年12月、本郷・お茶の水キャンパスでは新研究棟(I期)が竣工することから、更なる研究の活性化が期待できる。

4) 内部質保証推進組織の整備

本学は、これまで自己点検・評価を通じて、教育・研究等の質保証に取り組んできた。今後は、(公財)大学基準協会の第3期大学評価基準で求められる内部質保証システムの有効性を高めるため、全学的な教学マネジメントを行う「内部質保証推進組織」を整備し、PDCAサイクルの実効性を高めていきたい。

3. 今後の展望

1) 大学キャンパス・ホスピタル再編事業

本事業は、2017(平成29)年度で10年を経過したが、当初方針の通り原資を手元資金で賄い、財務状況に影響を与えることなく各キャンパス・附属病院における施設の拡充計画が順調に推移している。特に、本郷・お茶の水キャンパスでは、順天堂医院の建替えが完了し、センチュリータワーを中心とした教育研究環境も飛躍的に改善できている。更に、研究・実習ゾーンに、2018(平成30)年12月、新研究棟(I期)が竣工する予定であり、病院ゾーンでは、B棟、C棟完成後の病院機能の移転・再編に伴う1号館外来部門・病棟部門の再編のための改修工事が進んでいる。今後も、計画に沿って着実に事業を進めていきたい。

2) 教育・研究組織の規模拡大

2015(平成27)年に開学した国際教養学部の志願状況は、入学定員を大幅に上回っていたことから、同学部では2019(平成31)年度より、入学定員を120名から240名に増員する認可申請を行い、2018(平成30)7月、文部科学省より認可を受けた。質を落とすことなく、教育を展開していけるように教育・研究環境の整備を進めていきたい。

また、第6番目にあたる新学部として、本郷・お茶の水キャンパスにて理学療法士及び診療放射線技師を養成する保健医療学部(仮称)を設置する認可申請を行い、2018年(平成30)年8月、文部科学省より認可を受けた。2019(平成31)年4月の開学に向けて、着実に開設準備を進めていきたい。

4. おわりに

大学を取り巻く環境や大学に求められることが変わろうとも、学是「仁」、理念「不断前進」、そして学風「三無主義」からなる順天堂人としての文化、風土はぶれることはない。今後も順天堂は、永き伝統を継承し、自ら改革をすることを怠らず、教育、研究、診療・実践の質を高め、国際的にも評価され続ける「健康総合大学・大学院大学」として、社会貢献を進めていきたい。

2018(平成30)年9月

自己点検・評価運営委員会委員長
順天堂大学学長 新井 一